

ヤグニャとヴェーダは全世界のために

愛の化身である皆さん！

私は探しています。ずっとずっと探し続けています。私は当時間も探しました。私は今も探しています。私はずっと、真の、そして、正義にかなった人間を捜し続けているのです。

空腹な者の空腹は、

うまい料理の名を聞くだけで満たされようか？

深刻な貧困に苦しむ者の貧困は、

富の誉れを聞くことで軽減されようか？

(テルグ語の詩)

愛の化身である皆さん！

他の人に何かを教え始める前に、あなた自身がその教えを実行に移さなければなりません。その概念や習慣を他の人に教える前に、自分がそれを実践し、そこから喜びを引き出すことが、何にもまして不可欠です。アティ ルッドラ マハー ヤグニャに参加したロットウィック（僧侶、祭司）たちはだれも皆、たいへん善良です。実際、このロットウィックたちは私の期待にかなったと思います。私は彼らが行ったヤグニャのやり方に非常に満足しています。彼らが行ったサーダナ〔靈性修行〕にもです。彼らは期待以上のことをしました。これほどのロットウィックたちを有するのは、幸運なことです。明日このヤグニャは終了しますが、マントラは終わりません。マントラは永遠です。マントラにグナ（属性）は付随しません。マントラは、ニルグナム（属性を持たぬもの）、ニランジャンナム（純粹なるもの）、サナータナ ニケータナム（究極の住処^{すみか}）、ニッティヤ（永遠なるもの）、シュッダ（汚れなきもの）、ブッダ（覚者たるもの）、ムクタ（解脱を得たもの）、ニルマラ スワルーピナム（神聖さの化身）です。

このようなマントラはずっと私たちの耳で響いていることでしょう。ロットウィックとは、つねにマントラと結びついている人のことです。ロットウィックはマントラと別個のものではありません。マントラがなければ、ロットウィックは存在し得ません！ こうしたマントラは、ほんのわずかな幸いな者たちによってのみ、唱えられるでしょう。この世に多くのロットウィックは存在しません！ 中でも、132人のロットウィックだけがこのアティ ルッドラ マハー ヤグニャに参加することができました。

「おお！ つねにシャーストラ〔聖典、法典、論書〕を真理と見なす、ヴェーダのブラフミンたちよ！ そなたらは何と幸運であろうか！」。このブラフミンたちは、シャーストラ（靈的戒め）に従って人生を送り、シャーストラに完全な信頼を置いています。皆さんはこのようなロットウィックを、どこかよそで見つけることができますか？ 実に、皆さん〔ロットウィック〕が唱えたマントラはどれも、きわめて明瞭で、イントネーションは完璧かんぺきでした。ロットウィックらがそのようにマントラを唱えるのを聞くことができるのは、幸運なことです。このヤグニャがそうしたロットウィックらによって執り行われていることに、多くの人々が喜んでいますが、間もなく、同じようなヤグニャがプッタパーティで行われます。それはヴェーダ プルシャ サプタハ グニャーナ ヤグニャであり、毎年行われているものです。それはグニャーナ ヤグニャです。グニャーナ ヤグニャは、マナシカ タットワマナス（心の原理）に関連するものです。

ロットウィックの皆さん！ 皆さんはこの十日間に払った努力から多くの利益を引き出すでしょう。今はそれを実感できないかもしれませんが。各人が地元に戻って、静かにそれを黙想してごらんください。確実に至福を体験するでしょう。このロットウィックたちの中には多くの青年がいます。これは喜ばしい兆候です。青年たちがこのアティ ルッドラ マハー ヤグニャのような神聖な活動に参加しているのは、幸運なことです。私はヴィネイに言いました。「愛しい者よ！ このようなロットウィックらを有する私たちはこの上なく幸運です」。おそらく、皆さんはここで快適に過ごしていることでしょう。私は、皆さんの食事と滞在のためにより手配がなされているか、ヴィネイが皆さんに必要な快適な設備を提供したかどうかを考えています。私はこのところ、

2006年8月19日

アティ ルッドラ マハー ヤグニヤ 11日目の御講話

朝から晩までこれらのことを考えています。もし皆さんが幸せなら、私は幸せです。この十日間はまるで十分のごとく過ぎていきました。皆さんはきっと、ここでの十日間の滞在を楽しんだに違いありません。同じように、私も皆さんがここにいることがうれしいのです。皆さんは、どこに行こうともこの神聖な体験を黙想しなければなりません。これらの神聖な瞬間は、皆さんの記憶に留められなければなりません。皆さんはすぐにまた、プッタパルティにやって来るでしょう。それだけではありません。私は近い将来このヤグニヤをチェンナイで行うことに決めました。私は、あなたがた全員がそこに行ってヤグニヤに参加することを望みます。このヤグニヤの独特さを認識することはとても大切です。ヤグニヤとは何ですか？ ヤグニヤは物質的ですか、それとも霊的ですか？ これは物質的あるいは現世的なヤグニヤではなく、霊的なヤグニヤです。このヤグニヤは物質的、霊的、かつ、心に訴える体験をもたらしますが、これは実に唯一無二なることです。私は、皆さんの着るもの（ドーティー）をはじめ、このヤグニヤのあらゆる細部の面倒を見ました。ちょうど、愛情深い父親が我が子のことなら何でも世話をするように、私は皆さんに要されるものをすべて提供するための面倒を見ました。私は、明日ヤグニヤの最終日に皆さんに別れを告げることになっていることを、たいへん悲しく思います。私は、皆さんもこの場所を去ることを悲しく思っていることを知っています。私たちのこうした親密な間柄が本当の信愛です。皆さんが私から離れることはできませんし、私が皆さんから離れることはできません。私はいつも皆さんといっしょにいます。ですから、皆さんは「スワミはプッタパルティやバンガロールにいて、自分から遠く離れている」と考えて、不安な時を過ごすことのないように。皆さんがどこにいても、私は皆さんと共にいます。私たちの祭司長は、完全な信仰と信愛をもって、このヤグニヤのすべての儀式を執り行いました。祭司長は、これは自分の個人的な仕事であるという確信をもって、このすべてを行いました。そのような人はこの世で^{まれ}稀です。

私が強調したい最も大切なポイントは、犠牲の精神を培わなければならないということです。人はさまざまな欲を持っているでしょう。そうした欲はすべて、神を喜ばせる（ダイヴァ プリーティヤルタム）ために、神に捧げられなければなりません。自分自身を自我（the self）に限定してはなりません。セルフ（self）よりもヘルプ（help）

のほうがよいのです。どんな活動に着手するにせよ、それは自分の心〔フリダヤ〕を満足させるために、自分のアートマを向上させるために行われるものと見なさない。このヤグニヤはアートマ タットワ〔アートマの原理〕を実感するために実施されたのであり、何か物質的な利益や現世的な利益を得ることを目的として行われたものではありません。

皆さんは、自分の利益と自分の幸福、そして人類全体の幸福のために、この神聖なヤグニヤに参加しました。このヤグニヤは、ほんの一握りの人のためになされたのではなく、世界全体のためになされました。ここで唱えられたマントラは、空中で混ざり合い、全宇宙に広がっています。これらの神聖な音は、私たちの心に入り、心を清めました。ですから、このヤグニヤで唱えられたマントラはこの場所だけに限定されている、と考えるはなりません。マントラは全世界に広がっています。このヤグニヤは、インドのためだけになされたのではなく、世界のすべての国のためになされたのです。異なる国では、話される言葉も違うかもしれません。しかし、バーヴァ（感情）には何の違いもありません。アメリカ、ロシア、アフリカ等、多くの国の人々が、たいへん熱心にこのヤグニヤに参加しました。彼らもまた、ヴェーダのマントラを学んでいます。先月26日、ドイツから約80名の人々が、特別機でプッタパルティにやって来ました。彼らは全員、女性も男性もヴェーダを唱えました。彼らは私に言いました。「スワミ！ 私たちの国を守っているのは、これらのマントラだけです。ですから、私たちはこれらのヴェーダのマントラを、夜明けから日暮れまで唱えているのです」。こうしたマントラを唱えることには、少しも利己主義は存在しません。これらのマントラは、人類全体のためのものです。これらのマントラは、あらゆる人の幸福に欠かせないものです。ヴェーダは個人（ヴィヤンティ）を超えて、共同体（サマシテイ スワルーパ）に関係しています。西洋人でさえも、ヴェーダのメッセージをすべての国の人々に広めるために、現在ヴェーダのテキストを出版しています。西洋人にとって、ヴェーダのマントラを唱えることは確かに難しいことです。なぜなら、西洋人にはさまざまな音節を発音するのが困難だからです。マントラの中には発音のややこしいものもあります。しかし、真剣な努力によって、西洋人はそうしたマントラを正しく唱えることを学んでいます。固い決意さえもっていれば、人は何でも成し遂げる

ことができるのです。

決意すべきことを決意したら、
成功するまでそれにしがみつきなさい。
望むべきことを望んだら、
望みがかなうまでそれを手放してはなりません。
求めるべきことを求めたら、
それが得られるまであきらめてはなりません。
考えるべきことを考えたら、
成功するまでその考えを捨ててはなりません。
柔らかな ^{ハート}心をもつ神は、
あなたの祈りに負けるに違いありません。
不屈の精神をもちなさい。粘り強くありなさい。
決してあきらめてはなりません。
なぜなら、自分の決意を撤回したり弱めたりすることは、
帰依者の性質では決してないからです。

(テルグ語の詩)

このアティ ルッドラ マハー ヤグニャは、将来、さまざまな場所で行われなければなりません。このヤグニャはすべての人に関係します。このヤグニャは、一つの国、一つの宗教、あるいは一つのカーストに限定されません。このヤグニャは全世界の幸福のために行われます。もし皆さんがこのヤグニャを行い続けるなら、じきに全世界の人が一つになるでしょう。パキスタン、アフガニスタン、日本、アメリカ、ドイツ—すべての国が一つに結びつくでしょう。皆さんは今、アメリカにいくらかの帰依者がいるのを知っているでしょう。何人かのロットウィックもいます。イスラム教徒の帰依者もいくらかいます。一人の女性がスワミに関する本を書きました。彼女はアメリカに住む教師にその本を贈りました。教師は本を読むと感動して涙しました。その教師は、自分も彼女のように、そうしたスワミに関する書籍を書く幸運にあずかりたいと祈りました。その書籍は今、印刷されて出回っています。私たちは全世界を一

つにしなければなりません。それが「多様性の中の一体性」です。考えてもごらんください！ 私たちの国バーラタにおいてさえ、異なる行政区や言語といったものがあります。かつてのマドラス複合行政区は、タミルナードゥ州とアーンドラ プラデーシュ州の二つに分かれてしまいました。この国にはさらなる管区ができました。もっと多くの管区を求める声もあります。分裂によって国を小さな行政区へと分割することに、偉大さは存在しません。国を一つにすることはおおいなる業績です。一体性があるところには、純粹さが存在するようになるでしょう。純粹さがあるところには、神性が存在するようになるでしょう。ですから、私たちは一体性を得ようと努力しなければなりません。昨日ヴェーダを唱えたグループには、ロシア人の少年一人、イラン人の少年一人、そして、アメリカ人が何人かいました。皆さんはそのような一体性を実感し、発達させなければなりません。仮に皆さんの間に何らかの意見の相違があったとしても、即刻それを取り除きなさい。一つになりなさい。すべての人が兄弟姉妹のように生活し、行動すべきです。そうして初めて、皆さんは価値を得て、皆さんの人間としての出生が神聖化されるでしょう。

出典：http://www.ssbpt.org/Pages/Prasanthi_Nilayam/Atirudram19806_Discourse.html

翻訳：SSP